



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：新首相にアフマド・マイーティークを任命

アブドゥッラー・シンニー暫定首相の辞表（4月13日）を受け、5月4日、国民議会は新首相の選出を行った。現地報道によれば7名が立候補した。第1回投票の上位2名による決選投票の結果、アフマド・マイーティークが全185票中、121票を獲得して、新首相に選出された。マイーティークは1972年生まれ、西部ミスラータ出身で、ロンドン大学で国際経済・経営学の博士号を取得した実業家であるが、政治家としての知名度は低い。

しかし、この採決結果に対して異議が唱えられている。国民議会第一副議長のイッズディーン・アワーミーは、マイーティークの真の得票数は113票であり、新首相選出に必要な120票に達していないと主張した。しかし、4日、国民議会はマイーティークを新首相に任命した旨の決定文書をサハミン議長の署名入りで発出した。マイーティーク新首相は、2週間以内に組閣することとなる。

評価

リビアでは、3月にアリー・ザイダーン首相（当時）に対する不信任案が可決されて以来、首相がほぼ不在の状態であった。ザイダーンの首相解任（および国外逃亡）後、国防相のアブドゥッラー・シンニーが2週間の期限で暫定首相に就任した。しかし新首相の選定は進まず、シンニーの暫定首相期間は4週間に延長され、4月8日には、次期議会選挙までの任期中に首相に就任せざるをえなくなった。ところが、自宅を武装集団に攻撃されたことを理由に、4月13日、シンニーは首相辞任を表明した。こうした混乱の中、採決結果に不透明さが残りつつも、ようやくマイーティークが新首相に就任した。

新首相に突きつけられた課題は、何よりも治安の安定である。ザイダーンは任期中に誘拐され、シンニーが自宅を武装集団に攻撃されたように、もはや武装集団の攻撃対象は首相レベルにまで達している。また東部では、分離主義者が原油輸出港を支配しつつづけているため、重要な財源である原油収入を国家が管理できない状態となっている。こうした問題は、国家が民兵集団やイスラーム過激派の活動を統制できていないことに原因がある。リビアの治安崩壊は欧米諸国も懸念を表明しており、マイーティーク新首相の課題は重いと言わざるをえない。

（金谷研究員）